



2024年5月9日

DF 会員の皆様

一般社団法人ディレクトフォース

DF 関西勉強会担当 岡本正敏

(お知らせ) 第 22 回 DF 関西勉強会

今年、3回目の勉強会は大阪会場で、関西会員の中村洋明氏に講演をお願いしました。東京会員の皆様にも ZOOM で参加いただきますようお願いいたします。

地球温暖化による世界規模での異常気象が続き、いまや脱炭素社会の実現はまったなしです。自動車産業をはじめ各業界で活動が強化されていますが、航空機産業界でも大きな波が来ていますので、脱炭素の取り組みについて解説していただきます。



日 時：令和6年6月18日（火）15：00～17：00（講演）

17：00～19：00（懇親会）

場 所：大阪中央電気倶楽部 311号室

講 師：中村洋明会員（142） 博士（工学）大阪公立大学客員教授、

技術経営研究家 元・住友精密工業専務取締役

元・英国法人 Silicon Sensing Systems Ltd. 取締役会長、

演 題：「航空機産業界における脱炭素化の取り組みについて」

参加費：5000 円（但し、懇親会参加者のみ Zoom での参加者は無料）

ご参加の方法

- ・ 参加登録をお願いします 申し込みは前々日の **6月16日（日）15:00** までにお願ひ致します。
- ・ 申込みフォームで不具合が生じた方、および 登録完了の返信メールが届かなかった方は下記のアドレスにお問い合わせください。

ICT/DX 推進室 dfremote@directforce.org

参加申込みフォーム

講演会前日の **6月17日（月）** に、参加登録された方全員に接続用 URL と ID、パスコードをメールでお知らせいたします。

当日のご質問は次の 2 名が受けます。

小林慎一郎 080-8917-3896

岡本正敏 080-1259-5203

要旨

航空機産業界に対しても「脱炭素」の波が押し寄せている。CO2 削減が地球温暖化防止にどの程度貢献するのか、はたまた CO2 が諸々の異常気象発生の主要因になっているのかについては議論の分かれるところであるが、今や航空機産業界においても CO2 の削減に取り組むことが国際公約になっている。



ICAO（国際民間航空機関）では、最近「2050年までにCO2排出量を実施ゼロとする」野心的な目標を設定したので、各国は国を挙げて航空機分野の「脱炭素化」に向けて取り組んでいる。取組み内容は、何かと対比されることの多い自動車分野と共通する点もあるものの、様相は大きく異なる。

具体的に述べると、高効率化や電動化の流れは自動車と共通する点であるが、これらに依存する度合いは小さく、大きく頼ろうとしているのは SAF（持続可能な航空燃料、バイオ燃料などのこと）と水素燃料である。

これらを具現化するためには、種々の新しい技術の開発を必要とし、更には結果として巨大な市場を創出することになる。然し、一方で最後まで経済合理性を伴わなければ、大きな負担を人々に強いることにもなる。

本勉強会では、ここまで述べた航空機産業界における「脱炭素化」の取り組み状況や課題について概説する。

講師略歴

- ・ 住友精密工業時代、会社人生の 2/3 の間：航空宇宙分野に従事、1/3 の間：新規事業分野に従事。
- ・ 会社人生の終盤、英国に本拠を置く航空宇宙防衛企業 BAE Systems と、自動車市場狙いで MEMS モーション・センサの共同開発と営業活動を実施し、その成功を受けて折半出資の合弁会社を創業し、立上げと運営に従事。
- ・ 退職後、講義、講演、執筆、企業指導、行政支援などを継続中。拓殖大学客員教授、立命館大学客員教授、大阪府立大学客員教授などを務め、現在に至る。

著書（単著のみ記載）

- ・『新・航空機産業のすべて－「空飛ぶクルマ」から次期ステルス戦闘機まで』（日経 B P）
- ・『航空機産業と日本－再成長の切り札』（中央公論新社）
- ・『航空機産業のすべて』（日本経済新聞出版社、平成 25 年度「住田航空奨励賞受賞」）